
IF 〈Infinite Future〉

サクラよりサクラモチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

I F へ I n f i n i t e F u t u r e へ

【Nコード】

N 2 4 8 5 V

【作者名】

サクラよりサクラモチ

【あらすじ】

インフィニット・ストラトス。人があんな物を動かせるわけがない。ハイパーセンサーから送られてくる膨大な情報に、脳の処理能力が飽和するのは目に見えている。――なら如何するか――情報の処理に特化した“力”があれば良い。否、発想が逆。情報の処理に特化した“力”を持つ者たちが“いた”。その者たちの為に作られた物。それがインフィニット・ストラトス。これはそんなIFストーリー。

拘束の学園（前書き）

2011／02／11

設定の構築を開始

2011／10／08

設定、未完成

第一話はただのネタです

現在、本文制作の予定はありません
というか、プロットが書き上がる日が来るんだらうか。

拘束の学園

常時発動型だというのだから話にならない。

そう常時発動型だ。ISを起動するだけでその瞬間にソレは発動して、延々と効果を発揮し続けるのだ。非常に扱いに困る『零落白夜』なる能力を持つ我が友人は心底羨ましがっていた。というか、いつそ呆れていたな、あれは。

まあそんなこともあるだろう。

『零落白夜』や『絢爛舞踏』を観ていると、ソレはあくまで『一時的に解放される強力な能力』という先入観を持ってしまうのは、それはそれで仕方のないことではあるけれど、『常に機体スペックを引き上げる』という類の単一仕様能力があっても別におかしなことではないのだ。

——そうさっきから説得してはいるのだけれど。

「はあ……」

深い溜め息。いい加減に気を取り直して貰いたいものだ。

「あのさ、セシリア。セシリアの気持ちも分かる……なんてことは軽い気持ちで言っちゃダメかもしれないけど」

「……………」

「別に悪い能力ってわけじゃないんだからさ」

「……………」

「一夏なんていつもガス欠に悩まされてるんだから、ありたいに言っちゃうと結構贅沢な悩みだと思うよ？」

「……………」

「……………」

沈黙。沈黙である。

セシリアが何故こんなにも不機嫌なのかと言えば、それを語るには少し長くなる。

先日、『ブルー・ティアーズ』は、セシリアにとっての目標の一つを果たした。第二形態移行である。セカンド・シフト

『スカイ・ティアーズ（蒼空の雫）』と呼ばれるそれは、様々な各種スペックの向上が成されていたのだけれども、一番大きな変化はやはり単一仕様能力の発現だろう。

名を『スカイ・アイ』と言うその能力は、セカンド・シフトを果たして追加された拡張領域に、ビットを一度収納して、操縦者の視覚的認識領域下において任意にビットを展開できるというものだった。

このアビリティー、一見あまり強そうではない効果ではあるが、実際にはトンでもない破壊力を秘めていた。

まず、操縦者の視覚的認識領域下、などというが、ISを装着した人間は360度全方位に視野を持つ。ついでに言えばかなり距離があったとしてもかなりズームが利くのだ。

つまりは『意識した空間全てにビットが展開可能』と言っているのと大差ない。

敵の背後にビットを展開することもできれば、ビットが攻撃を受けそうならバス・スロットに戻してしまえばいいのである。しかも常時発動型。

ビットがオープンとクローズを繰り返して発生する膨大な量子の輝きは、それはそれは人々を魅了する美しさで……

しかしこの良いこと尽くめなアビリティーが、セシリアにとって大問題を巻き起こした。

――あれ？　これは……スラスターは要らないのではなくて？――

ビットに付いているスラスター、それが要らない。当たり前だ。オープンしてクローズして、違う場所にオープンして。その過程にはスラスターというものが必要無さ過ぎる。

――あ、あれだけ軌道の練習をしましたのに？――

その時のセシリアは酷かったという。何がどう酷かったかは語れないほどだとか。

ついでにいうと慰めるシャルロットの苦労も計り知れない。

しかも厄介なことに、問題はセシリア個人に留まらなかった。

「……今本国は軽いパニック状態ですわ。BT兵器のサンプリングが完全にストップして……」

ビットの思念による特殊軌道が必要なくなったことで、同時に『スカイ・ティアーズ』はBT兵器のサンプリングを目的とした試験機であるにもかかわらず、その主たるビットの特殊軌道のデータ収集が意味を成さなくなったのだ。

拘束の学園（後書き）

ちよろいちよろい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2485v/>

IF <Infinite Future>

2011年11月11日21時00分発行